訓練マニュアル

２０１３．８

東海市
緑陽コミュニテイ
南柴田・北犬山町内会
千鳥自主防災会

目　　次

１、	避難誘導部	１	避難誘導訓練	３ページ
２、	初期消火部	１	初期消火	４
３、	炊き出し部	１	給食給水訓練	５
４、	応急救護部	１	救護訓練（ＡＥＤ）	６
		２	救出訓練	７
５、	情報収集部	１	情報収集訓練	８
		２	情報伝達訓練	９

６、　その他

・安全点検部、　清掃部、　衛生部、　防犯部、　家屋の修理部、

生活維持活動部等の項目が挙げられるが必要に応じ検討する

・上記以外の訓練活動は多数考えられるが　実施した場合は順次追加記載する。

NO，１－１	避難誘導部
訓練項目	避難誘導訓練
訓練目的	・地震等による建物の倒壊・損傷、洪水、火災などにより、地域住民に危険が及ぶ場合、安全な場所への避難が必要。 ・災害によって、自主防災会で、最初に集まる安全な一時避難場所（千鳥健康交流の家・北犬山八幡社・パチンコワイド等）に集合。 ・その後　津波避難所名和中に移動。 ・状況に応じて、集団で安全な避難経路により避難。 ・安全な服装で、非常持ち出し袋を携帯。 ・災害時要援護者の手助け方法を確認。
訓練要領	① 情報班による避難勧告等の伝達。 ② 避難開始前に、ガスの元栓の閉鎖。 （その他、電気のブレーカーの遮断等も行う。） ③ 人員を確認する。災害時要援護者の状況を確認する。不明者があれば手分けして安否の確認。 ④ 避難の状況を市対策本部に報告。 ⑤ 避難誘導部長の指示に従い、高齢者、身体の不自由な人、子ども、負傷者などを助け合いながら行動。 ⑥ 寝たきりや身体の不自由な方には、車いすやリヤカーを使用。 ⑦ 避難者がはぐれないようにロープを使って移動することも考慮する。 ⑧ 塀や家屋などの倒壊、落下物、足元などに注意し、安全な避難経路をとる。 ⑨ 避難所に到着次第、人数の確認。
使用機材	千鳥自主防災会の旗、プラカード、誘導ロープ、強力なライト、リヤカー、車いす、拡声器、三角巾、救急医療品、警笛、ビニールシート、毛布など
他の訓練	・避難経路の危険個所の発見・確認調査訓練 ・車椅子の使い方訓練（押す・引く・階段等）

平常時の役割	災害時の役割
・避難所、避難路、避難地の安全巡回点検 ・現状把握の避難訓練 ・避難時の非常持出品、服装等の確認 ・避難路別の危険度と時間の習得	・避難地、避難路の安全性の確認 ・避難人員点呼と安全な誘導 ・避難固辞者の説得と誘導

NO，２－１	初期消火部
訓練項目	消火器訓練
訓練目的	隣近所で助け合って火災を広げないようにする。 ・落ち着いて初期消火をする。（①早く知らせる②早く消火する③早く逃げる） ・大声で「火事だ！」と隣近所の応援を求める。 ・すぐに119番をする。（ただし、大地震の場合は、消防車の手が回らない場合がある。） ・消火器やバケツを持って駆けつける。
訓練要領	消火器の使用方法 ①安全ピンを抜く。 ②ホースを火元に向ける。 ③レバーを強く握る。 ・火炎に正対しないよう低い姿勢で風上から行なう。 ・天井に着火しないようにする。
使用機材	消火器
他の訓練	・小型可搬ポンプ操作訓練 ・消火栓活用訓練 ・バケツリレー消火訓練

平常時の役割	災害時の役割
・家庭での消火方法の習得と広報 ・初期消火の訓練（消火器） ・可搬式小型動力ポンプの消火習得 ・防火用水の確保確認	・初期消火活動 ・火災警報（見張り） ・出火防止の広報

NO，３－１	炊き出し部
訓練項目	給食給水訓練
訓練目的	・炊き出し等による給食活動を行う ・救援物資の配分。 ・市から提供された飲料水、水道・井戸等により確保された飲料水による給水活動を行う。
訓練要領	・炊き出し訓練 　朝食の場合 　昼食の場合 　夕食の場合 ・訓練の場合はカレーライスが一般的に実施されている。 ・ペットボトルの配布 ・共同炊飯用具の調達と管理 ・飲料水・生活用水の調達計画と管理 ・必要物資の調達計画斡旋方法の検討 ・
使用機材	テント、テーブル、釜、米、みそ、お碗、割り箸、うちわ、まな板、包丁、簡易コンロ、 かまど、災害用コンロ、ブロック、調理用セット、食器セット、ポリタンク、 調味料など
他の訓練	・給水訓練 ・救援物資配布訓練（班別・班以外配布） ・

平常時の役割	災害時の役割
・非常持ち出し品の広報（3 日間） ・共同炊飯用具等の調達計画と管理 ・飲料水、生活用水の調達計画と管理 ・必要物資の調達計画斡旋方法の検討 ・炊き出し訓練	・非常持ち出し品の指導 ・炊き出しの実施 ・備蓄品の確認と管理 ・給水、救助物資の配分の協力

NO，４－１	応急救護部
訓練項目	救護訓練　AED操作
訓練目的	大規模な地震災害時には、多数の傷病者が予想されます。応急手当や安全な場所に搬送 千鳥自主防災会内に医療など関係者がいれば助言を受ける。 市消防署にAEDの訓練を受ける。
訓練要領	・人が倒れていたら ①周囲の安全を確認する。 ②大声で応援を呼ぶ。119番へ通報する。AEDの依頼をする。 ③呼吸をみる。（呼吸があれば、回復体位にして救急隊の到着を待つ） ④呼吸なし。 口腔の異物は無いか確認する。 胸骨圧迫（心臓マッサージ）　・大人少なくとも5cmぐらい押す ・小児の場合胸の厚さの1/3程度とする ・100回/分のペースで押す 人工呼吸2回(胸骨圧迫と人工呼吸は絶え間なく交互に行う) AEDの使用 （注意）熱中症の場合を除き、衣服、毛布等で身体を包み保温する。 やむを得ず動かすときは、骨折等の可能性もあるので慎重に行う。
使用機材	AED・毛布・タオル・携帯拡声器・担架
他の訓練	・出血時の止血法　・傷の応急手当 ・骨折固定法 ・担架の搬送法

平常時の役割	災害時の役割
・負傷者の救助に必要な用具の調達 ・応救手当技術の習得 ・救護所の連絡搬送の習得 ・AED 使用の習得 ・仮設トイレの設置習得 ・要救護者の仮想訓練	・負傷者の救出救助活動 ・負傷者の応急手当と医療機関搬送準備

NO，４－２	応急救護部
訓練項目	救出訓練
訓練目的	大規模な地震災害時には、家屋の倒壊、家具などの下敷き、落下物などにより多数の負傷者が発生することが予想されるため、迅速な救出活動が必要。
訓練要領	・ポイント ① 防災資機材の日頃からの調達と手入れ ② 防災資機材の正しい使用方法の習得 救助順序 ① まず自分の安全を確認する、負傷者など救出を要する人の確認をする。 ③ 周囲の人の応援を求め、防災資機材で救出を図る。 ④ 被災者の状況を把握し、救助隊に引き継ぐ。 救助方法 ① 安全の確保（ガスの元栓閉め ブレイカ―の切り等） ② てこの原理の活用、角材の利用、自動車用ジャッキなどを活用する ジャッキを使用する場合、堅固な台座に使用する。合板などであて板をする。 ③ 持ち上げた空間が崩れないよう角材などを入れる。 ④ はしごを使用する場合は2人で持つ。ロープを腰や両脇から肩で交差させるなど、安全に配慮する。 ⑤ 土砂などを掻き出す場合、バケツやたんすの引き出し、毛布等を活用する。 ⑥ 車やロープの活用も考える。 ⑦ 要救助者の体に傷をつけないこと。要救助者の近くでは手作業で行う。 ⑧ 消火器やバケツ等を用意する。 （被災者へ）・声をかけ安心感を与える。・タオルや毛布等で目隠しをする。 ⑨ 作業の途中にも状況に応じ、声をかけながら実施する。
使用機材	のこぎり、バール、ハンマー、斧、自動車用ジャッキ、ロープ、はしご、ペンチ、 ボルトクリッパ、モンキーレンチ、自家発電機、投光器、コードリール、硬い角材、 ２～3mの鉄パイプ、バケツ、毛布、消火器具、一輪車、リヤカー、拡声器など
他の訓練	・出血時の止血法　・傷の応急手当 ・骨折固定法　・担架の搬送法

平常時の役割	災害時の役割
・負傷者の救助に必要な用具の調達 ・応救手当技術の習得 ・救護所の連絡搬送の習得 ・AED 使用の習得　・要救護者の仮想訓練 ・仮設トイレの設置習得	・負傷者の救出救助活動 ・負傷者の応急手当と医療機関搬送準備

NO，５－１	情報収集部
訓練項目	情報収集訓練
訓練目的	自主防災組織内の発災に伴う被害状況（死傷者の状況、建物、道路及び河川などの被害等）、火災発生状況等の情報を収集し、市対策本部（市役所）へ報告する。
訓練要領	・情報収集部長は情報収集班員に被災状況収集の指示を出す。 （1）情報収集部長の指示がなくても、情報収集班員は自分の担当地域の状況を収集する。 （2） 隣近所の状況をお互いに伝達し情報収集班員に早く知らせる。 ・情報収集班員は現場の状況を把握する。 いつ・誰が・どこで・どうして・どの様になっているか・メモをとる ・情報収集班員に詳細に情報収集部長報告する ・情報収集部長は情報を記録し整理して自主防災組織会長に報告する。 記録には伝達時間、伝達事項、伝達相手など記録する。 ・地域の状況を掲示板等に貼る。
使用機材	自転車・携帯ラジオ・拡声器・掲示板・腕章
関連訓練	・

平常時の役割	災害時の役割
・地震について正しい知識の習得と普及 ・地震、火災発生時の危険個所の広報 ・地区内の安全点検 ・危険物の調査と対策の検討 ・伝達訓練の実施	・警戒宣言の伝達 ・避難命令の伝達 ・災害情報の収集と伝達、デマ防止、 ・被災後危険個所の広報 ・災害状況を集約し防災機関へ通報

NO，５－２	情報収集部
訓練項目	情報伝達訓練
訓練目的	市対策本部（市役所）などの防災機関の情報や、ラジオ・テレビから得た情報を正確・迅速に市民に伝達する。
訓練要領	・市対策本部からの情報、千鳥自主防災会長は情報収集部長に流す。 ・情報収集部長はわかりやすい伝達文にして、情報収集班員に渡す。 ・情報収集班員は担当地域に拡声器で知らせる。 またチラシ・掲示板・回覧板などで知らせる。 【ポイント】 早く正確に伝達する。 ・情報源の確認をする。 ・復唱する。 ・メモで伝える。
使用機材	自転車・携帯ラジオ・拡声器・掲示・　腕章
関連訓練	・

平常時の役割	災害時の役割
・地震について正しい知識の習得と普及 ・地震、火災発生時の危険個所の広報 ・地区内の安全点検 ・危険物の調査と対策の検討 ・伝達訓練の実施	・警戒宣言の伝達 ・避難命令の伝達 ・災害情報の収集と伝達、デマ防止、 ・被災後危険個所の広報 ・災害状況を集約し防災機関へ通報